



vol.106
2022年5月号

瀬戸内市社会福祉協議会

【せとうち社協通信】は【ふくしのわ】へと名前が変わりました



目次

社協からのお知らせ	2
権利擁護センターからのお知らせ	4
赤い羽根☆まちづくり・福祉活動助成事業 助成団体 大募集	5
ひきこもりサポートセンターひなたからのお知らせ	6
地域包括支援センターからのお知らせ	8

社会福祉法人
瀬戸内市社会福祉協議会

〒701-4246
岡山県瀬戸内市邑久町山田庄862-1
TEL : 0869-22-2940
FAX : 0869-22-1850
<https://www.setouchisyakyo.or.jp>
info@setouchisyakyo.or.jp

ホームページ



社協からのお知らせ

こども用品無料交換会を開催しました！



3月12日(土)に「こども用品無料交換会」を初めて開催しました！

まだまだ使えるこども用品をお友だちに贈る感覚で持ち寄って頂いた当企画は、当日137組359名の方に参加して頂き、大変盛況な交換会となりました。

こども用品は千点以上が集まり、市民の皆様の注目度が伺えました。

参加者からは「我が家から出たお下がりがどなたかの手に渡っていたらいいなあ」「久しぶりに会えたママさんたちもみんな変わってなくて、懐かしい気持ちになりました」などの感想を頂きました。

本会としては、子育て世帯の経済的負担の軽減や交流を深める場として活用頂き、また実際にエコ活動に参加することでSDGsについて考えるきっかけになればと思います。

最後になりましたが、回収ボックスを設置してくださったゆめタウン巨久店様をはじめ、当企画にご協力頂きました法人、団体、市民の皆様本当にありがとうございました。



SDGs

・・・今月号の表紙・・・
第三回みんなで支え合うまちづくりフォーラムを開催しました！

3月12日(土)みんなで支え合うまちづくりフォーラムを開催しました。多くの市民の皆さまが地域での支えあい事例を共有することにより、自分たちが生活する地域で日常の支えあいの活動を推進するとともに、災害に強い地域づくりを進めることを目的に始まったフォーラムも3回目を迎えました。当日は新型コロナウイルス感染症対策にも配慮し、多くの市民の皆さまが会場に足を運んでくださいました。

基調講演ではノートルダム清心女子大学 人間生活学部 人間生活学科 中井俊雄准教授をお招きしました。

実践発表では、巨久地区社会福祉協議会によるふれあいこども食堂の取り組み、長浜地区介護予防リーダーによるはつらつ教室でのつながりづくりの取り組み、巨久高等学校の生徒による瀬戸内市の活性化を目指した取り組みについて報告をいただきました。こどもから高齢者まで地域で暮らす人々の交流を図るなど、コロナ禍でもつながりや見守りを絶やさぬよう工夫して活動が続けられている様子が伺えました。

今年度も第4回目を開催し、市内の多様な実践活動を紹介していきたいと考えております。



社協からのお知らせ

基本理念(スローガン)

思いやり 支え合い
みんなで築く 福祉の輪

令和4年度
事業計画

基本方針

1. みんなで福祉のまちづくり
2. 地域まるごとつながり強化
3. 寄り添い・後押し相談支援

重点施策

1. 地域に根づいた福祉活動の推進

- 1) 福祉委員制度の推進
- 2) 地区社協活動及び小地域ケア会議の推進
- 3) こどもひろば開催支援事業 ※1
- 4) ささえ愛ネットせとうちの地域支援事業
- 5) みんなで支え合うまちづくりフォーラム ※1

2. 通いの場等の推進

- 1) ふれあいサロン
- 2) はつらつ教室・OB会活動 ※1
- 3) つくしカフェ(認知症カフェ) ※1
- 4) 認知症介護家族の交流会 ※1
- 5) ぴあ座談会
- 6) くつろぎ処ひなたぼっこ ※1
- 7) 地域食堂・こども食堂の活動推進

3. ボランティア・市民活動の推進

- 1) ボランティアに関する相談
- 2) ボランティア連絡協議会の支援
- 3) ボランティアセンターだよりの発行
- 4) 夏のボランティア体験事業
- 5) 福祉協力校活動普及事業
- 6) 災害時のボランティア支援

4. 福祉まるごと相談体制の推進

- 1) 高齢者の相談業務等 ※1
- 2) 主に高齢期を迎える障害者の相談業務
- 3) 権利擁護に関する相談業務等 ※1
- 4) 生活困窮に関する相談業務等 ※1

- 5) ひきこもりに関する相談業務等 ※1
- 6) 日常生活自立支援事業 ※2
- 7) 法人後見事業
- 8) 生活福祉資金貸付事業 ※2
- 9) 緊急援護資金貸付事業

5. 支え手の育成・ネットワークづくり

- 1) 生活支援サポーターの活動支援
- 2) 認知症施策等における支え手の育成 ※1
- 3) 権利擁護における支え手の育成 ※1
- 4) ひきこもりの理解促進と支え手の育成 ※1
- 5) 高齢者支援のネットワークづくり ※1
- 6) 権利擁護支援のネットワークづくり ※1
- 7) 生活困窮者支援のネットワークづくり ※1
- 8) ひきこもり支援のネットワークづくり ※1

6. 新たな福祉課題への取り組み

- 1) ささえ愛ネットせとうち
- 2) 空き家を活用した新たな拠点づくり

7. 情報収集・伝達と法人運営・財政基盤の強化

- 1) 広報事業
- 2) 法人運営及び福祉センター・社協バス管理
- 3) 社協会員の加入促進と寄附受付け
- 4) 共同募金運動の推進

※1 瀬戸内市受託事業

※2 岡山県社会福祉協議会受託事業

資金収支予算概要

収入の部 (単位:円)

経常活動による収入	216,253,000
会費収入	9,750,000
寄付金収入	1,750,000
経常経費補助金収入	45,204,000
受託金収入	137,198,000
事業収入	2,570,000
介護保険事業収入	15,292,000
障害福祉サービス等事業収入	538,000
受取利息配当金収入	585,000
その他の収入	3,366,000
施設整備等による収入	0
その他の活動による収入	9,414,000
積立資産取崩収入	2,029,000
その他の活動による収入	7,385,000

収入の部合計 225,667,000

支出の部 (単位:円)

経常活動による支出	220,218,000
人件費支出	164,827,000
事業費支出	1,567,000
事務費支出	44,163,000
助成金支出	9,661,000
施設整備等による支出	977,000
固定資産取得支出	390,000
ファイナンス・リース債務の返済支出	587,000
その他の活動による支出	8,268,000
積立資産支出	2,451,000
その他の活動による支出	5,817,000

支出の部合計 229,463,000

詳細につきましては、本会ホームページに掲載しております。

社協からのお知らせ

補助事業を活用しコロナ対策を強化しました！

補助事業名「緊急的な対応を必要とする事業（新型コロナウイルス感染症の拡大防止策）補助事業」を活用し、新型コロナウイルス感染症の感染予防を目的に①サーマルカメラ、②パルスオキシメーター、③テントを整備しました。

新型コロナウイルス感染症の影響を受け、本会への相談者は急増し、生活への不安、地域での福祉活動への不安など様々な相談が日々寄せられています。より早い対応や感染者の侵入を未然に防ぐなど、来所者の皆様が今まで以上に安心して相談できるように環境整備を行いました。

ここに事業完了の報告を申し上げますとともに、公益財団法人JKAをはじめ、ご協力を賜りました関係者の皆様に謹んで御礼申し上げます。詳細については、本会ホームページに掲載しております。



①サーマルカメラ



②パルスオキシメーター



③テント

権利擁護センターからのお知らせ

～親族後見人からの相談も受け付けます～

成年後見制度は、認知症や知的障がい、精神障がいなどにより、判断能力が十分でない方を、法的に守り、家庭裁判所から選任された援助者（成年後見人等）が、財産管理及び本人に必要な契約などを支援する制度です。自分で契約や財産管理などの法律行為を行うことが難しい場合などに利用されます。

成年後見人等は、弁護士や司法書士などの専門職が就任する場合や子どもや兄弟姉妹、配偶者などの親族が後見人に就任する場合等、本人の状況により様々です。

成年後見人等として就任した親族を「親族後見人」と呼びますが、令和2年のデータ（最高裁判所事務総局家庭局『成年後見事件関係の概況』）によると、全国で成年後見人等に就任された方のうち、約20%が「親族後見人」となっています。

家族として本人を支えようと後見人になったものの、「家庭裁判所への報告書類の書き方がわからない」、「本人に必要な手続きをどうやって進めたらよいか」、「本人のために後見人としてどう活動したらよいか」、「このやり方」ともあるかもしれません。

権利擁護センターでは、そのような「親族後見人」によるご相談や「親族後見人になることを考えている方」からのご相談も受け付けています。必要に応じて、ご本人の支援者と一緒に考えていきます。気になることがあればお気軽にご相談ください。

【連絡先】
権利擁護センターほっと♡せとうち
電話：0869-24-7711
メールアドレス：
kenri@setouchisyakyo.or.jp



お気軽に
ご相談ください！



赤い羽根☆まちづくり 福祉活動助成事業 助成団体

大募集

「まちを良くするしくみ」づくりとそれを支える「見える共同募金」を推進するために、今年度も『赤い羽根☆まちづくり福祉活動助成事業』を実施し、ボランティア活動やまちづくりに貢献する様々な市民活動等に助成金を交付して活動を支援します。

本会ホームページより「実施要綱」「申請書様式」をダウンロードできます。

対象団体

- 地域の居場所づくりに関する取り組みをしている団体
- ボランティア活動団体
- 防災・防犯、治安力を高める活動をしている団体
- 地域の活性化につながる行事又は事業を実施している団体
- その他、活動効果が期待される地域福祉活動団体

助成金額

10万円以内※1団体1事業。単年度助成。

応募条件

- 瀬戸内市内に活動の拠点を置いていること
- 原則1年以上の活動実績があり、継続した活動が見込めること(但し、活動実績が1年未満でも、地域に貢献できる事業で、計画・活動内容が明確である場合は認めることがある)
- 法人格の有無は問わないが、団体の規約類、会計処理体制が整っていること
- 前回の助成から、1年以上期間が空いていること

募集期限

令和4年6月30日(木)

【問い合わせ先】

瀬戸内市共同募金委員会

☎ 0869-22-2940



福祉農園



子育て支援



配食サービス



イベント開催

令和4年3月、長船町を流れる香登川で桜苗の植樹が行われました。以前の河川はごみの不法投棄も多く、草木が生い茂り整備されておらず、この現状を改善したいと富岡西老人クラブが音頭を取り、町内の有志で河川敷の清掃活動を始めました。富岡西老人クラブ小山裕行さんは「河川の草刈りだけではなく桜を植樹することで、日頃より河川を綺麗に保とうという気持ちも芽生える。桜の花が咲くころには老若男女たくさんの人々が集う憩いの場になればいい」と笑顔でおっしゃっていました。集まった町内のみなさんも楽しそうに作業をされていました。とても素敵な活動でした。

またこの活動の一部には赤い羽根☆まちづくり福祉活動助成事業による助成金が使われています。事業について詳しくは上の記事をご覧ください。

子どもから高齢者まで みんなの憩いの場へ



ひきこもりサポートセンターひなたからのお知らせ

令和4年2月28日～3月31日の期間、令和3年度多様な生き方ができる地域社会の実現のための市民講座「今、あらためてひきこもりを知る」ひきこもるこころの理解と地域でできること」の録画配信をしました。ここでは、お二人の先生にお話しいただいた内容を少しだけご紹介させていただきます。

講演1

「私の経験、ひきこもった経験から現在までのこと」

KH丁岡山きびの会

共同代表 浅山広大氏

ひきこもり経験のある先生にはKH丁岡山きびの会の共同代表、浅山広大先生に、対談方式でご自身の経験を語っていただきました。

——ひきこもりになったきっかけは？

高校を卒業後、県外で就職しましたが人間関係でいろいろあり、岡山に帰りました。岡山に帰ってから仕事もしましたがすぐ辞めるようになって、何もしない期間が少しずつ長くなっていき、交友関係も疎遠になっていくという流れの中で、いわゆるひきこもりになったと、何年かたってから気付くようになりました。

——家にずっといるようになった

時に、安心したとか不安が少なかったとかいうことがあれば教えてください。

母から「今後どうするの」ということを言われたことはあったけど、そんなに頻りに接触がある感じはなく、動けなくなった理由というのを察してくれてはいたので、その辺りは、他の当事者と比べると楽だったのかなと思います。

——反対にしんどかったことは？

良く覚えているのが「そろそろアルバイトでも…」と家族に話した際、「アルバイトなんてしている場合じゃないでしょ」とぴしゃりと言われたときは、出鼻をくじかれた感じがしたのはありましたね。

——そろそろ何かしてみようかなと思っただけは？

家族で犬を飼うことになりました、家にいるんだからお前が世話をしろという流れになりました。犬の散歩をするようになりまして。その散歩を行っている時に、偶然地元の友人に会い、少し話をして、友人から趣味の集まりに参加することをすすめられ、趣味の集まりに顔を出すようになりました。なったんですけど、他の人たちは集まって仕事の話をするけど、自分だけそういった話ができないのは気まずいなどというのと、集まりではよかったですけど、家に帰ると何もすることがないという

ので、外に出たい意欲が強まるようになりました。

——最後に、こんなことを理解してくれるとひきこもった経験のある方が暮らしやすいと思われることがあれば教えてください。

正直に言うと、僕も今現在ちゃんとした就労についているという状態ではないというのがまずあります。でもきびの会の居場所に来てくれている人は、うまく就労できていない人、かつてひきこもっていたけど今は就労している人もいろんな人が来てくれていて、そういう人たちが集える場所になりたいというのがあります。「今の自分の状態だと出て行って話しづらい」というよりは、こちらから根掘り葉掘り聞くことはないので、いろんな人とのやり取りを通して、自然と自分のことを話せたいいなと思うので、僕自身の社会参加も含めて、来てくれた人達とやっていきたいと思えます。

講演2

「ひきこもるこころの理解と孤独・孤立を防ぐ支援」

岡山県精神保健福祉センター

所長 野口正行氏

ひきこもり支援の専門家としては、岡山県精神保健福祉センターの所長、

野口正行先生にお話しいただきました。

1 ひきこもりの実態について

ひきこもりは「様々な要因の結果として社会参加(義務教育を含む就学、非常勤職を含む就労、家庭が出の交友など)を回避し、原則的には6カ月以上にわたって概ね家庭にとどまり続けている状態」と定義されています。調査等はこの定義に基づいてされています。

ひきこもりの実態調査は内閣府が平成28年9月と平成31年3月に行われています。これらの調査では15歳～39歳で1.57%が、40～64歳で1.45%がひきこもり状態にあり、人口の約1.5%前後、推計すると全国で約115万人になるということで、当時、ひきこもりが100万人にのぼるといことが社会的に衝撃をもって伝えられました。岡山県で推計すると1万6千人、瀬戸内市だと2900人になると推計ができます。これはあくまでも推計なので、大まかな数字だと思っただけだと思えます。

ひきこもりというのはあくまで状態像で、医学的診断ではありません。医学的診断としては、統合失調症、うつ病、発達障害などが含まれることがあります。もちろん診断がつかない方もいます。様々な状態の方がおられると言えます。きっかけとしては、職場での不適応や人間関係の問題がきっかけ

けになりやすいです。

2 ひきこもりの回復過程について

ひきこもり状態にある方は様々なので一律にこうとは言えませんが、一般論としてお話ししたいと思います。まず大事なことは、そもそもひきこもりになっってしまうときには、ストレスとかいろいろなことが重なって、かなりエネルギーが低下してしまっているということだと思います。その間本人は、相当我慢して、頑張っていて疲弊している。これは、おさえておく必要があるところです。ひきこもってからもしばらくエネルギーが低下した状態が長く続きますが、ちよつとずつエネルギーが回復しますが、しかし、しんどかった時の記憶が残っています。よほど頑張れるだけのエネルギーが戻らないと、ひきこもりから出ていくということにはならないかもしれない、ということとは、周りの方は考えておかないといけないと思います。回復には、まずは小さな成功体験を積み重ねて自信と好奇心が出てくるようなことがあって、最終的に社会生活に参加していくことが可能になります。ですから、周りの人は頑張れとか励ましの言葉をかけたくなりますが、それよりも楽しいとか肯定的な感情を積み重ねていただく方が良いとされています。そのためには、安心／安全な環境の提供と理解してくれる人の存在が必要かと思えます。

3 ひきこもりへの支援について

現状としてはまず家族が相談に来られることが多いと思うので、家族のこれまでの苦労を傾聴して労うことです。ご家族も本人のためにやっていることが本人の状態とかみ合わないというか、家族も大変なしんどさを抱えておられるところがあります。家族もエネルギーが低下しています。また、良かれと思つてやったことが裏目に出るということがしばしば起こっています。そこは、うまく歯車がかみ合うようにしていくことが大切になります。そうすることで、お互いのエネルギーが消耗するのを防ぐことができます。本人と家族の関係がうまくいくように調整していくことがとても大事な支援になります。

支援のまとめですが、まずは安心してひきこもれる休息できることが大切で、本人が来所しない場合でも家族をサポートしながら家族関係の調整を行うことが大切です。また、本人が来所した場合には、本人のエネルギーが低下している状況を見て、エネルギーがたまるのを待つことが大切で、できることから少しずつ段階的に進めてもらうことで、回復していくことができます。

4 まとめ

社会から一時期ひきこもることは異常ではないと知っておくことは必要だ



と思います。いろんなしんどい体験とかほんとに大きいストレスがかかってしまうことは誰にでも起こりうることで、その時に社会から一時的に撤退して低下したエネルギーを回復することには必要になってくることです。回復のためには、周囲のサポートが大切になってきます。ただ周囲のサポートも自分たちだけでは難しいところもあります。家族もこんな感じでいいんだろうとか、本人もこれでいいんだろうとか、いろいろ迷いや不安が出てくると思います。そんな時に過度に不安にならない為にも、支援機関を利用してもらえればと思います。

地域の方にできることとしては、ひきこもり状態にある人や家族は助けてもらいたい気持ちと、他人には知られたくない気持ちの両方があるので、相談には乗るが、ちよつと離れて見守るなどの微妙な距離感が大切です。ひきこもりは誰にでも起こりうることを知っておくことが第一で、そう知っておくことで偏見を持たなくなるのではないかと思います。そして、日頃の住民同士の声掛けや助け合いなど、地域の雰囲気づくりが大切だと思います。

大切にしたい送る心・・・

言い尽くせない「ありがとう」を繋ぐお手伝い

ご相談
お見積り **無料**

「費用・精神的な負担」
を取り除くためにも

お葬式の事前相談をしてみませんか？

ご相談のお問い合わせはこちら



株式会社 **備前屋**

オブジェ邑久

オブジェ牛窓

オブジェ西大寺

瀬戸内市邑久町豊原90-1

瀬戸内市牛窓町牛窓22-1

岡山市東区西大寺東1-5-11

0120-02-4445

<http://www.sougi-bizenya.jp>

備前屋 葬儀 検索

地域包括支援センターからのお知らせ

「認知症サポーター養成講座」をご存じでしょうか？認知症を正しく理解し、その当事者やご家族を温かく見守る「応援者」となっていたいただくための講座です。市内のサロンや小学校、中学校、高校、金融機関、薬局、スーパーマーケット等、様々なところから申し込みをいただいております。昨年度は、166名の新たなサポーターが加わりました。

今回は養成講座を行う講師（キャラバン・メイト）の紹介です。全国キャラバン・メイト連絡協議会と県の共催の「キャラバンメイト養成講座」で、研修を受けた者が講師役になっています。日頃ボランティアで活動されている方や、各事業所のケアマネージャー等、立場や職種は違いますが、「認知症になっても安心して暮らせる街を作りたい」という気持ちがあれば、お声掛けいただければ、市内全域の各種グループや職場に行かせていただきます。興味のある方はぜひお問合せ下さい。

瀬戸内市キャラバンメイト



【申し込み・問い合わせ先】
瀬戸内市地域包括支援センター

☎ 0869-24-0001

認知症サポーター養成講座
認知症について楽しく学びませんか？

認知症サポーターとは？
正しい知識を持って、認知症の方や、そのご家族を地域や職場で見守り、支える人です。

講座内容は？

内容	所要時間
①認知症の基礎知識	45分
②認知症の予防・対応	25分
③認知症の対応	25分
④認知症の対応	25分

※時間は21:00～23:00の間に調整可能です。

キャラバン・メイト®が出張します!!
瀬戸内市では、地域のサロン、老人大学、ほろろ館、スーパーマーケット、薬局、小学校～高校、福祉等... いろんなところで開催しています。

申し込み方法は？
手厚い案内をさせていただきます。
※講師の調整等の関係上、講座開催希望日の1ヶ月以上前にお申し込みください。

お問合せ先 瀬戸内市地域包括支援センター ☎0869-24-0001

高野山真言宗

堂山墓地

空 区 画 有

【区画利用については檀家外でも可】



ペットの供養
ご相談ください

円福寺

瀬戸内市邑久町豆田 875
電話 0869-22-0539

亡くなった後のことを生前に決めておく「終活」を始めませんか

- *御葬式 → 生前戒名授与など
- *御墓 → 納骨供養墓
- *御位牌 → 本堂永代供養

※但し、当寺院の檀家様、もしくは新たにご加入されることを条件とさせて頂いております。



ご寄付ありがとうございます

～皆様のお気持ちを大切に一層の福祉を進めます～

※ご了解をいただいた方のお名前、金額等を掲載させていただいております。なお、本会への香典返し・篤志寄付は、確定申告をして頂ければ、所得税等の税額控除を受けることができます。

印刷・発行業務の関係で令和4年2月1日から令和4年3月15日受付分までのご寄付を掲載させていただきます。

篤志寄附

■長船町

土師	土師地区親睦会様	金一封
土師	住みたい瀬戸内市を作る市民ネットワーク様	金一封

香典返し

■牛窓町

長浜	上岡 優子 様(故馬場 早智子 様)	金一封
長浜	的場 馨右 様(故的場 美津子 様)	金一封

■邑久町

下山田	大脇 美知子 様(故大脇 孝一 様)	一万円
下山田	藤森 博明 様(故藤森 二三夫 様)	金一封
北島	有森 貢 様(故有森 剛 様、治代 様)	金一封

■長船町

磯上	浦上 勇 様(故浦上 勝巳 様)	金一封
長船	匿名	金一封

■瀬戸内市

市内	匿名	金一封
----	----	-----

食料品

◇牛窓町

牛窓	匿名	食料品
長浜	匿名	食料品

◇邑久町

福元	匿名	食料品
本庄	匿名	食料品

◇長船町

土師	匿名	食料品
土師	匿名	食料品

◇瀬戸内市外

岡山コープ岡山東エリア	有志11名様	食料品
-------------	--------	-----

未使用・書き損じハガキ

◇牛窓町

長浜	匿名	51枚
----	----	-----

◇邑久町

箕輪	匿名	124枚
福元	匿名	12枚

◇瀬戸内市外

岡山市	匿名	15枚
-----	----	-----

切手

◇牛窓町

牛窓	匿名	19枚
----	----	-----

令和3年度未使用・書き損じハガキ、切手、テレホンカード
集計結果: 174,379円

本会では引き続き未使用・書き損じハガキ、切手、食料品を募集します。福祉活動費や生活支援費に活用させていただきます

【お詫びと訂正】

社協通信 vol.105号掲載記事に誤りがありましたことを深くお詫び申し上げます。

3ページ 誤 横山製網(株) 正 横山製網(株)

7ページ 誤 ほらだひでこ 正 いわたにひでこ

7ページ 誤 岩谷英子様 正 岩谷英子様

さくら会員にご入会されませんか?

毎月の掛金は一切ありません!

ご入会金は5,000円のみ1回限り

さくら会員ご入会で
うれしい特典盛りだくさん!

瀬戸内市
社会福祉協議会
ふれあいサロンの
講師にも登録して
あります。

わかりやすい
終活セミナー

無料出張 好評 受付中!

少人数でも承ります。お気軽にお問い合わせ下さい!



さくら祭典 せとうち

☎0869-24-2300 瀬戸内市邑久町下笠加238

参加者募集

第8期

瀬戸内市

介護予防リーダー養成研修

瀬戸内市では、高齢者の皆さんが、健康で生きがいのある生活を送れることを目指して歩いて行ける身近な場所に「はつらつ教室(通いの場)」を広げる取り組みを行っています。R4年4月現在、はつらつ教室は市内に約100会場あります。

この教室は体操による介護予防の目的だけでなく地域の「仲間づくり」「見守り」「支え合い」といった大切な役割をはたしています。

この「通いの場づくり」をはじめとする介護予防事業や地域を支えているのは介護予防リーダーです。ぜひ地域を支える介護予防リーダーになりませんか？

日程

全8回コース(いずれも金曜日)

令和4年6月17日、24日・7月1日、8日、15日、22日、29日・8月5日

時間

9:30～11:30(受付9:15～)

会場

瀬戸内市総合福祉センター2階 大会議室

対象

瀬戸内市民の方で全8回参加できる人で

①地域で介護予防などに関する活動を行ってみたい方

②介護予防などボランティア活動に興味のある方

※特に資格は必要ありません。年齢制限もありませんが全8回を受講可能な方で、できれば研修終了後に「自主グループを立ち上げる又は参加する」気持ちのある方を募集します。

参加費

無料

内容

椅子のできる瀬戸内市オリジナルの介護予防体操、健康講話で知識アップ、ゴム体操など

定員

15名(先着順で定員になり次第、締切ります)

申込期間

令和4年5月9日(月)～6月3日(金)

お問合せ

瀬戸内市地域包括支援センター(生活支援コーディネーター)

☎ 0869-24-7718



お客様の思いに寄り添ったお葬式

ライブカメラ配信

離れた場所からでも大切な方との最期のお別れをして頂けるよう、ライブ中継を実施しています

ひと家族限定対応

メモリアル会館おさふねはひと家族限定対応のため、気兼ねなく過ごしていただけます

宿泊施設完備

- ・一般葬
- ・家族葬 親族葬
- ・一日葬(ワンデーセレモニー)
- ・「お別れの会」「偲ぶ会」等の宗教色のない葬儀
- ・自由葬 音楽葬



新型コロナウイルス感染予防対策を行っております

株式会社 八葬祭

本社事務所：〒705-0001 備前市伊部1331-2

☎：(0869) 64-1577 FAX (0869) 64-1581

夜間：(0869) 65-8204

メモリアル会館 おさふね

所在地 瀬戸内市長船町長船296-1

☎：(0869) 66-0577



<https://8sousai.jp>

株式会社 八葬祭

検索